

GIGAスクール構想のもとでの 小学校特別活動の指導について

特別活動の指導においてICTを活用する際のポイント

【新学習指導要領とICT活用の関係】

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

特別活動の方法原理は「なすことによって学ぶ」であり、直接体験が基本であるが指導内容や活動場面に応じて、適切にコンピュータや情報通信ネットワークなどを活用することによって、児童の学習の場を広げたり、学習の質を高めたりすることができる。特別活動の特質である「集団活動、実践的な活動」の代替としてではなく、特別活動の学習の一層の充実を図るための有用な道具としてICTを位置付け、活用する場面を適切に選択し、教師の丁寧な指導の下で効果的に活用することが重要である。

小学校・学級活動におけるICT活用①

学級活動

問題の発見・確認

解決方法等の
話し合い

解決方法の決定

決めたことの実践

振り返り

次の課題解決へ

活動のねらい

学級や学校における集団や自己の生活、人間関係をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、ICTを効果的に活用してよりよく実践できるようにする。学級活動（1）「学級や学校における生活づくりへの参画」では、議題を選定する際に活用するなど、多様な意見のよさを生かして**集団として合意形成**を図って協働して実践する。学級活動（2）（3）ではICTを活用して課題意識を高めるなど、学級での話し合いを生かして**一人一人が自分に合っためあてや実践方法を意思決定**して実践できるようにする。

ICT活用の際の留意点

学習過程に合わせてICTの活用場面や活用内容を事前によく検討し、ICTを活用するためだけの授業展開にならないように留意する。特に、**本時の活動においては「子供同士の話し合い」を大切にすることが求められる。**

学級活動における活用例

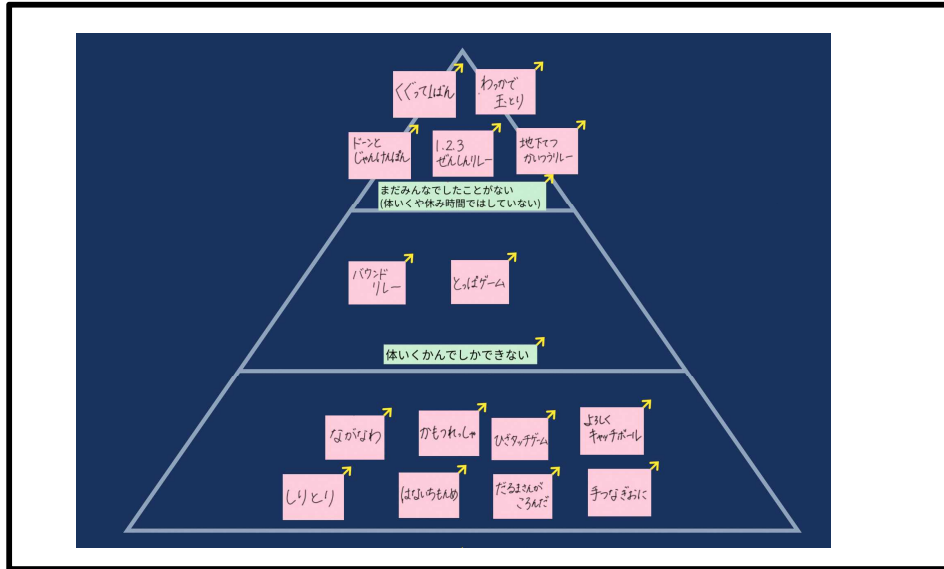
○学級活動（1）「学級や学校における生活づくりへの参画」の事前の活動で、計画委員会で議題を選定する際に、ICT端末で出された議題案を分類・整理し、適切に選定できるようにする。本時の話し合いの場面では、出された意見を分類・整理して、子供たちの思考を整理し、少数意見も大切にして話し合う。多様な意見のよさを生かして合意形成を図ることができるようにする。

○学級活動（2）（3）で、事前のアンケート調査をICT端末を活用して実施したり、集計結果をグラフ等にまとめて視覚的に工夫して提示したりして、課題意識を高める。学級の全体の考えを集約し、電子黒板に提示して話し合ったり、友達の考えを参考にしたりして、一人一人がよりよく意思決定することができるようにする。

小学校・学級活動におけるICT活用②

学級活動(1) 学級や学校における生活づくりへの参画

【議題の選定や、出された意見の集約、分類・整理】



【ICT活用の具体的な活用場面の例】

事前の活動【議題の選定】

- ・計画委員会で議題を選定する際に、出された議題案をデジタルホワイトボードソフトの思考ツール機能を活用して、分類・整理する。
- ・学級の全員に関わる問題か、学校の生活がよくなるための問題か、自分たちの力で解決できる問題か、などの視点をもとに**適切に選定**し、電子黒板等で提示して、学級の全員の了承を得た上で議題を決定する。

本時の活動【出された意見の分類・整理等】

- ・事前にデジタルホワイトボードソフトの付箋機能に自分の考えを書き込んでおく。
本時では、学級全体の意見を集約したり、出された意見を**分類・整理**したり、相違点を明確にしたりして話し合う。
- ・少数意見も大切にして話し合い、**多様な意見のよさを生かして合意形成を図り**、「自分にとっても、みんなにとってもよいこと」を決めることができるようにする。



※活用したソフトや機能：デジタルホワイトボードソフトの思考ツール機能、付箋機能

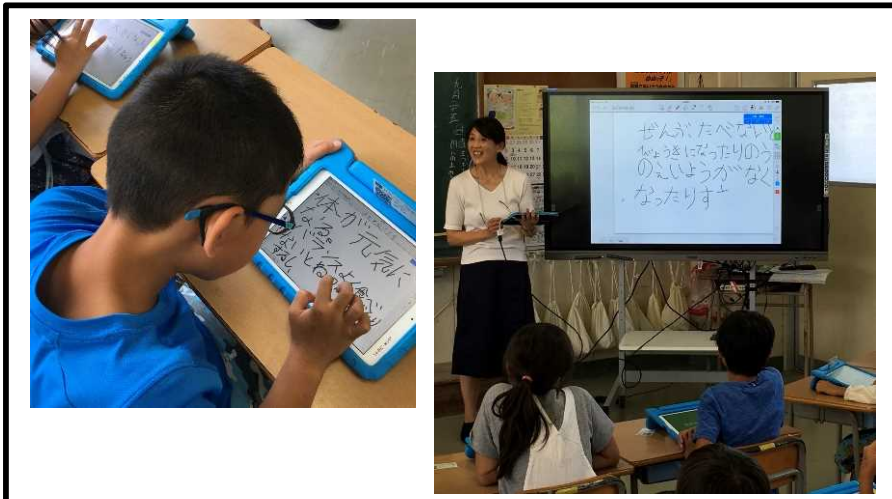
小学校・学級活動におけるICT活用③

学級活動(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
学級活動(3) 一人一人の自己実現とキャリア形成

【アンケート結果や資料の提示】



【考えを共有して話し合ったり、アドバイスし合ったりする】



【ICT活用の具体的な活用場面の例】

本時の活動【アンケート結果や資料の提示】

- ・題材についての学級の現状や一人一人の考えなどを事前に調査し、アンケート結果を電子黒板等で提示して、問題意識を高める。
- ・日常生活の様子を映像や写真で振り返ることで、題材に対する問題意識を高める。
- ・上級生からのビデオメッセージやゲストティーチャーのインタビュー動画を視聴し、目指したい姿を具体的にイメージしたり、解決方法に生かしたりする。

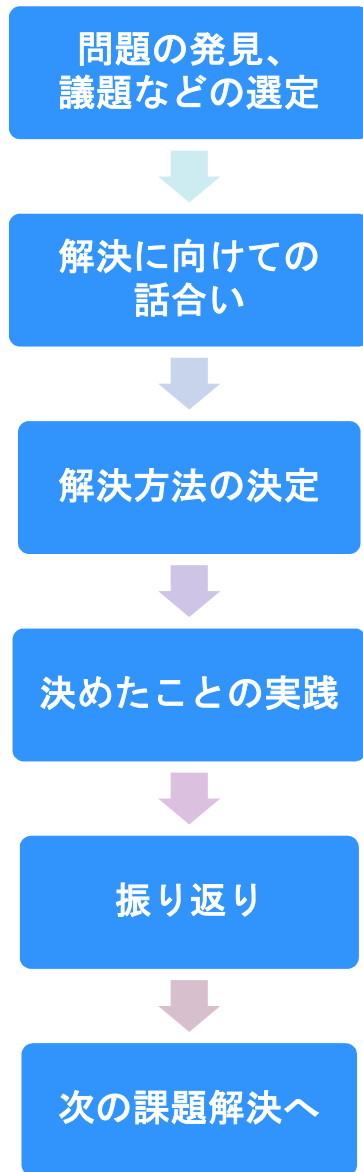
本時の活動【話合いや意思決定に生かす】

- ・一人一人が自分の考えをタブレット端末に記入し、グループでアドバイスし合ったり、大型黒板を活用して学級全体で共有して話し合ったりして考えを広げ、発想の違いを生かしてよりよい解決方法を見つけられるようにする。
- ・**話合いを生かして**、自己の課題解決ややりたい自分になるために、**自分に合った具体的な個人目標を意思決定**することができるようにする。

※活用したソフトや機能：写真・動画撮影機能、デジタルホワイトボードソフトの思考ツール機能

小学校・児童会活動におけるICT活用①

児童会活動



活動のねらい

学校生活の充実と向上のために、子供たちがICTを活用して主体的に調べたり、課題を解決するために話し合ったり、協力して実践したりして、**参画意識を高め、自分たちでよりよい学校生活をつくる**ことができるようにする。
決められた仕事だけをやるのではなく、発意・発想を生かして、活動の計画や運営に取り組み、異年齢の友達と楽しく触れ合い、交流を図ることができるようにする。

ICT活用の留意点

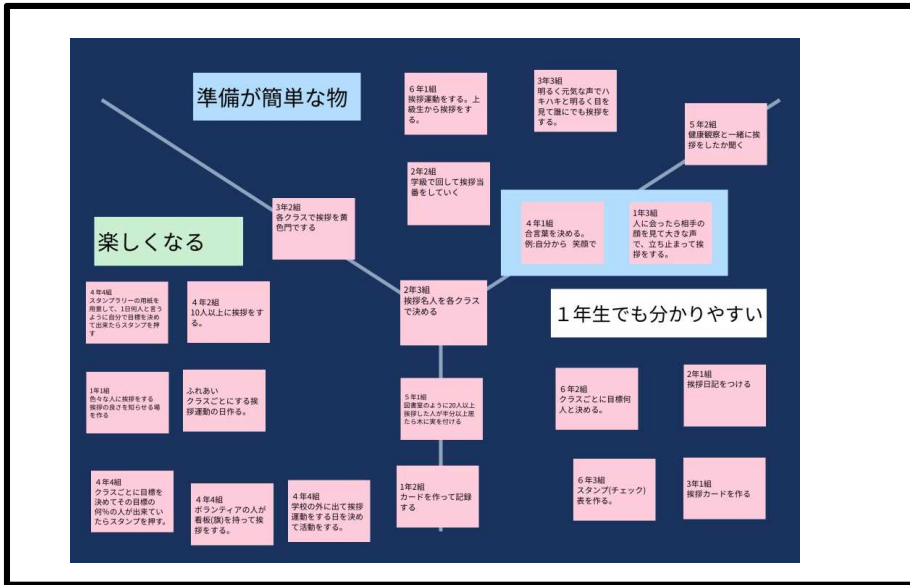
活用場面や活用方法を工夫して、下学年の児童も児童会活動に主体的に取り組むことができるようにし、**参画意識を高める**。
子供に任せきりにせず、**教師の適切な指導の下**で行う。

児童会活動における活用例

- ・全校で参集できない状況でも、テレビ放送やウェブ会議ソフトを活用することで、各委員会の活動の発表や児童会集会活動を実践することができる。
- ・アンケート調査やインタビューに活用したり、子供の発意・発想を生かして話し合ったりして、創意工夫して活動する。
- ・下学年の子供たちも主体的に関わる活動となるように工夫するなど、相手意識をもって実践することができる。
- ・実践の様子を写真に撮影してファイル共有機能を活用して共有したり、動画を撮って実践後に全校に放送したりして、振り返りや次の活動に生かす。
- ・近隣の学校や遠隔地の学校とウェブ会議ソフトを活用して交流し、互いの取組を発表し合ったり、課題について話し合ったりして、自校の児童会活動の豊かな実践に生かす。

小学校・児童会活動におけるICT活用例②

【代表委員会で各学級から出された意見を分類・整理して話し合う】

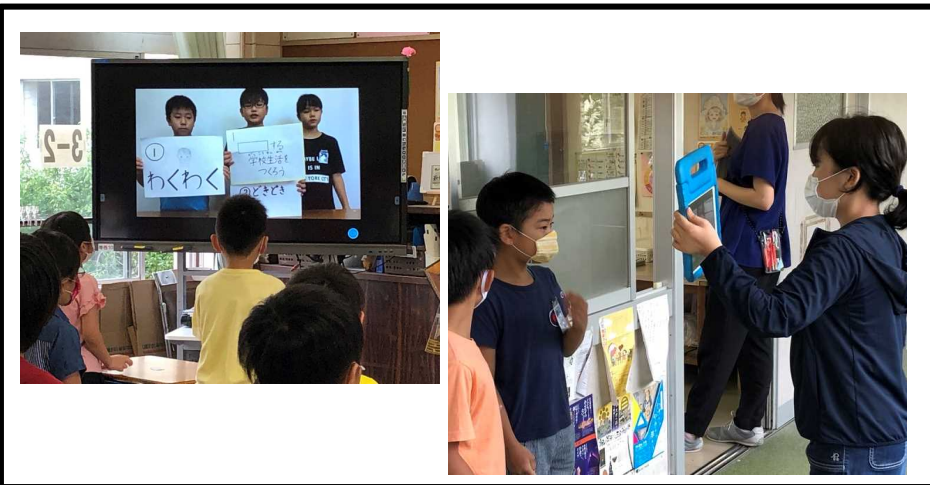


【ICT活用の具体的な場面の例】

事前の活動や話し合い活動【意見の募集、分類整理】

- ・学校生活をよりよくするための取組や代表委員会で話し合っしてほしいことをアンケート機能を活用して全校に募集し、参画意識を高める。
- ・議題や準備するものなどを事前に知らせて、効率化を図る。
- ・代表委員会や各委員会で話し合う際に、デジタルホワイトボードソフトの思考ツール機能で各学級で話し合ったことや出された意見を集約したり、分類・整理したりする。下学年の意見も大切に、多様な意見のよさを生かして合意形成する。
- ・代表委員会で話し合っただけで決まったことや各委員会からのお知らせなど、ファイル共有機能を活用して全校に知らせ、共有化を図る。

【テレビ放送を活用した集会活動やインタビュー】



決めたことの実践【集会活動やインタビューに生かす】

- ・発意・発想を生かして、参集せずに各委員会の発表や全校集会活動を実践する。
- ・発表の様子をウェブ会議ソフトを活用し、体育館や放送室から各教室に中継したり、インタビューを行ったりして、下学年も主体的に活動に取り組むことができるようにする。

※活用したソフトや機能：写真撮影機能、学習支援ソフトのファイル共有機能、デジタルホワイトボードソフトの思考ツール機能、ウェブ会議ソフト

小学校・第5学年・学級活動（2）・「目指せ整理整頓マスター」①

熊本市提供

育成を目指す資質・能力

- 整理整頓の大切さを知り、そのために必要な整理整頓の知識や整理整頓の仕方を身に付けるようにする。
- 自己の生活上の課題に気付き、話し合いを生かして、自ら解決方法を意思決定することができるようにする。
- 自己の生活をよりよくするために、他者と協働して自己の生活上の課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、他者を尊重してよりよい人間関係を形成しようとする態度を養う。

ICT活用のポイント

- 授業の導入で、リアルタイムで結果を確認できるアンケート機能を使ってアンケートを取り、その場で学級の実態を示すことで整理整頓の必要感や切実感をたせる。
- 効果的な整理整頓の仕方について、家族にインタビューしたり、ICT端末のカメラ機能を活用し、家の整理整頓のポイントを写真に撮って持ち寄ったりすることで、解決方法のヒントとなるようにする。
- 話し合いの場面で学習支援ソフトのデジタルホワイトボード機能を使って意見を書き込み、それを電子黒板に映し出すことで、友達の意見を共有しやすくする。

【つかむ】意識調査の結果等から学習のめあてを理解する

【さぐる】整理整頓をするメリットとデメリットを話し合い、整理整頓の必要性を理解する

【見つける】効果的な整理整頓の仕方について話し合う

【決める】自分にできる整理整頓の仕方を見つけ、自分のめあてを決める

事例の概要

【つかむ】

事前にとっておいた意識調査の結果を示し、整理整頓に対する学級の意識を確認する。さらにアンケート機能を使って、授業開始時点での認識を確認し、結果をグラフ化して提示することで、意識と実態の差に気付くことができるようにする。

【さぐる】

デジタルホワイトボード機能のシートに、整理整頓をすると「よいこと」と「困ること」を班で出し合う。授業者はシートを確認し、有効性が感じられるものを電子黒板に写し、共有する。

【見つける】

各自で事前に用意してきた家族へのインタビュー動画や家の中の写真などをもとに話し合い、効果的な整理整頓の仕方について考える。

【決める】

話し合いで出された整理整頓の仕方を参考に、自分のめあてを意思決定する。

小学校・第5学年・学級活動（2）・「目指せ整理整頓マスター」②

【ICT活用の場面①（つかむ：実態把握）】



【ICT活用の場面②（見つける：解決方法の話合い）】



【ICT活用の場面①（つかむ：実態把握）】

○学習過程と事例におけるICT活用の場面との関係

事前意識調査では、「整理整頓ができている」と答える子供が多かったが、教師から見るとできていないところも多かった。そのため、導入で、自分の机の中やロッカー等を確認し、その時感じた思いについてアンケート機能を活用して確認し、結果をリアルタイムでグラフに示した。事前意識調査の結果だけでなく、授業時点での認識をその場で提示したり、話し合ったりしたことで、子供たちも整理整頓に対して必要感、切実感を持ち、自分事として考えることができた。

○ICTを効果的に活用するためのポイント

アンケート機能を活用し、結果をリアルタイムでグラフ化したことで、事前意識調査の結果と授業開始時点での認識が比較できた。それにより、整理整頓できていると思っていたが、実際にはそれほどできていないということに気付くことができた。

【ICT活用の場面②（見つける：解決方法の話合い）】

○学習過程との関係

事前に用意してきた家族へのインタビュー動画や家の中の写真などを、互いに見合っ
て話し合うことで、効果的な整理整頓の仕方に気付き、具体的な意思決定につなげ
ることができた。

○ICTを効果的に活用するためのポイント

ICT端末を持ち帰り、整理整頓の工夫を動画や写真で準備しておくようにした。事
前に、学年通信等で取組について保護者に知らせ、理解と協力を求めておいた。

【活用したソフトや機能】カメラ機能、学習支援ソフト（デジタルホワイトボード機能、アンケート機能）